第5章　当該国における関連する他分野商品の潜在ニーズ

　本章では、我々の国内調査及び現地調査を基に考えられる衛生・栄養分野以外での潜在ニーズについて説明する。

1. 家庭内エネルギー

　現地に行くと直ぐにわかるのが、ナイジェリアでは頻繁に停電を経験する。ホテルや官公庁でも１日に何度も停電が発生しており、どの施設や家庭でも発電機が欠かせない状態となっている。停電の根本的な原因は、発電所の電力供給不足であり、現地での話では発電施設が正しく運用・メンテナンスされておらず、本来の発電能力が発揮できない点が問題とのことであった。この点を民間だけで解決することは困難ではあるが、家庭や施設内のエネルギー供給という点では可能性があると考える。発電機による発電にはディーゼル燃料が必要である。ちょうど我々が現地調査をしている時期には、国内情勢の影響でガソリンスタンドに石油がない、もしくはガソリンスタンドでの順番待ちが長蛇の列になっているような状況にあった。当然裏ルートでの石油取引（とはいっても道路脇で普通に売られている）が幅を利かせる結果となってしまっている。こうした状況に対処することはもとより、クリーンなエネルギーの活用と石油依存の社会を徐々に変えるべく太陽光発電や蓄電が有効ではないかと考える。もちろん多くの家庭の電気を一日中まかなうとすれば非常に高価な装置が必要となるし、現在の技術では BOP 層全体の電力をまかなうことは事実上不可能だとは思うが、現地で必要とされている必要最小限の電力という点で考えれば、１家庭で１日に２時間程度でも電力が供給できれば、彼らの夕方から夜の食事や就寝までの生活レベル向上に寄与するのではないかと考える。また、街中に明かりが少なく、明かりも暗いものが非常に多いので、より少ない電力で明るさを確保でき、電球が切れることも少ない LED 技術の採用なども技術的なソリューションとして有効ではないかと思う。

ガソリンを待つ長蛇の列

ガソリンスタンドで順番を待つカノのバイクタクシー

発電機を販売している店

BOP 層家庭に設置されている発電機

燃料はディーゼル

Copyright (C) 2010 JETRO. All rights reserved.

2. 女性向け美容製品

現地のヒアリングで確認したところでは、ナイジェリアでは若い女性に女性用かつらが人気であるとのことであった。実際に現地女性のファッションとして、髪の毛は多くの女性がストレート(かつら含む)にしており、縮毛はドレッドヘアの女性を除き、あまり見かけることがなかった。
実際我々が現地でショップオーナーにヒアリングをした際に、私(男性)に「その髪の毛が欲しい」と現地女性からいわれたことがあった。その女性はウェーブがかかったストレート系の髪の毛だったので、「あなたも同じような髪ですよね」といったら、「これはかつらだから」という答えが返ってきた。なぜかつらなのかをさらに聞いてみると「縮毛だから」ということで、特に若い女性たちの間では欧米文化を模範にした髪形が主流となっていることを伺わせた。

ラゴスの女性
ふりかけを試食するストレートヘアの女性(写真中央)

ラゴスの女性
ラゴス(左写真とは別の場所)

ラゴスの女性
PwC ラゴスの受付嬢

BOP 層が住むエリアの売店でも女性用の化粧品類や、BOP 層の女性が住む部屋にはたくさんの衣料品などが置かれており、現地での美容意識の高さが窺われた。化粧品などは肌の色や肌質が異なるため難しいかもしれないが、現地のファッションや美容、スタイルの中で日本の消費財を当てはめることができれば、ナイジェリアの美容市場の足がかりができる可能性がある。女性の美への欲求はナイジェリアでも他の国と全く同様に当てはまると考えてよいようだ。

ラゴス都市部
住宅地近くにある道路沿いの店

写真左と同じ店舗
若い女性の間で流行中のウィッグ(付け毛)

ラゴス郊外 Badiga
(BOP 層居住地区)
靴やバックが数多くあり、カラフルな洋服が部屋中にかけられていた

Copyright (C) 2010 JETRO. All rights reserved.

3. 自転車

ナイジェリアの最大都市ラゴスで感じたことは、渋滞がひどいということである。電車がない上に、ラゴスの中心地が島の地形となっており、メインルートである数本の橋がボトルネックとなり、ラッシュアワーには会社に向かう（会社から帰る）車で渋滞が発生している。ナイジェリアの給与所得者は基本的に車（バス・バイク含む）で通勤しており、輸送効率が良くない（車は一人一台、バイクは1台に1人、バスでも日本より小型のため10数人で1台）。

ラゴス市内の渋滞

バスの停留所に集まる人達

ラゴス中心部の路上駐車

逆に、不思議であったのが、自転車をほとんど見かけないということである。理由はわからなかったが、自転車であれば、環境にもやさしく、燃料もいらず、通勤の時も渋滞を避けて通ることができるため、かなり重宝するのではないかと感じた。しかも、自転車は仕組みが比較的簡単なので、修理やメンテナンスを現地で行うことも可能で、産業的にも裾野が広く（自転車部品の製造･改造・修理・販売など）現地展開の可能性を秘めているのではないかと考える。

カノ市街を走る自転車
カノののどかな町中では自転車を見ることができた

以上

Copyright (C) 2010 JETRO. All rights reserved.